

公共事業を通して復興の道のりと村民の暮らしを支えています
株式会社 東栄



株式会社東栄は、平成21年の創業。創業者で代表取締役社長西川孝広さんは宮内地区の出身で、南相馬市の建設会社に勤務した後、独立。伊丹沢地区に社屋を構えて建設業と運搬業を営み、村内及び南相馬市エリアで、多数の公共事業にも携わってきました。

東日本大震災の発災時は、国に認められ、特例で村内の営業を継続。社員が避難先から通つて、復興事業に取り組みました。

西川社長は「当時どのよう動いていたかを正確に思い出すのが難しくなりま



多種類の大型車両を保有しています。

した」と話します。状況の変化に対応を続けた、当時の多忙さがしのべれます。震災後、南相馬市にも拠点となる営業所を設置。また、敷地が手狭になり、平成28年には社屋を隣地に移転し建て替えました。

同社は、除染作業、除去土壌を保管する仮仮置き場の整備、その後の基盤整備事業など、多くの事業に参画し、フェーズに応じて村の復興を支えてきました。

現在の社員は31人で、従業員は全員が、大型特殊車両の免許を持っています。「やる気さえあれば、それ



道の駅を盛り上げようとイベントを開催。

らの免許を持たない方も採用しています」と西川社長。「入社後に会社負担で必要な免許を取得してもらっています」。後継者となる長女の新開茜衣梨さんも大型車両のドライバーとして活躍しています。

令和4年からは道の駅で「はたらくクルマ大集合!」と題したイベントを開催。「集客に少しでも貢献できれば」と、現場に出ている車両も2日ばかりで会場に運び入れます。イベントでは毎年、来場した子ども達が本物の重機や大型車両に親しみを輝かせています。



株式会社東栄
飯館村伊丹沢字伊丹沢834-8
☎0244-26-7682

※求人については直接同社にお問い合わせください。

取材日の夕方に、それぞれの現場から帰社した皆さん。和気あいあいと撮影に協力していただきました。社内の雰囲気よさが伝わります。

福島陸上競技協会と福島民報社が主催する『ふくしま駅伝』(市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)は、平成元年に創設されました。各市町村のチームが総合順位、市の部、町の部、村の部で順位を競います。

飯館村は、この大会で輝かしい成績を残してきました。村の部優勝が13回。そのうち平成4年から13年にかけては10回連続、平成15年から17年にかけては3回連続の優勝を記録。また、平成12年の第12回大会では、市の部、町の部を加えた総合順位で5位(村の部1位)に入賞しています。

大会は、東日本大震災が発災した平成23年にも開催されました。平成25年にはチームを編成できない町村の合同チームが正式に認められ、県内全59市町村が初

めてそろって出場しました。

避難を経験した飯館村も選手の確保がいよいよ困難になりました。しかしチームの懸命の努力、学校の教員・生徒、卒業生らの貢献などにより、フル出場、前半または後半のみの出場、オープン参加など、毎年状況に応じて単独チームを編成し、タスキをつないできました。平成27年、令和2年には取



3連覇を果たした第17回大会。ゴールの福島県庁前でアンカーを胴上げ。(平成17年)

ふくしま駅伝への挑戦

タスキをつないで

歴史の散歩道

0244-420072(問)生涯学習課



16区間のフル出場を果たし敢闘賞を受賞した第27回大会。ゴール後、チームの記念撮影。(平成27年)

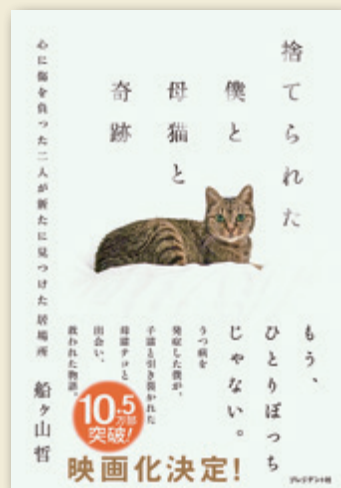
ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。



おすすめ図書を紹介しします

捨てられた僕と母猫と奇跡



船ヶ山哲／プレジデント社
うつ病を患った著者が保護猫との出会いを通して生きていく力を取り戻していく実話。出会いから別れまでの物語。普段当たり前にある日常を大切にしようと思える1冊です。

10月27日から11月9日は『読書週間』です

最近読書をしていますか。読書は読解力や語彙力、記憶力、集中力、想像力を向上させるなど、さまざまなメリットがあります。ぜひこの機会に読書の秋を満喫しましょう。